

研究会の視点

- ・子どもが、単元を通して実現していきたい「夢(=活動の目的)」と、現在取り組んでいる学習活動のつながりを理解し、本時に臨むことができていたか。
- ・子どもが直接的な体験を通して、意味や価値のある情報を収集することができていたか。
- ・「つかむ(教師の見取りや子どもの自覚化)→ふかめる(子どもによる焦点化や教師の手立て)」が、無理なく文脈に沿って繋がっていたか。
- ・1時間の授業の時間的な見通しをもち、「ふりかえる」をしっかりと授業の中に位置づけることができたか

1年1組(片岡級) 「なかよしごう～すーぱー1ねんせいになろう～」

【担任の意図】

愛隣幼稚園との交流を振り返ることをから、友達からも自分の成長を認めてもらうことで、より自分が成長していることを実感し、もっと成長したいという思いをもつ。

【授業の様子】

子ども達は、自分が目標を達成できたということだけでなく、友達の達成できている姿を認め合うことができていた。そのため、より自分の成長に自信をもち、もっと成長したいという思いをもつことができていた。だからこそ、もっと自分がやりたいと思うことを実現しようとする姿を今後目指していきたい。



2年2組(花村級) 「ながれぼし おもちゃランド」

【担任の意図】

身近材の特性を生かして、「もっと(高く、遠くに)～したい」という思いをもてるように、活動中は多くの子どもの声をかけるようにした。

【授業の様子】

身近材の特性を考え、風、ゴム、磁石を中心に様々な活動ができた。子どもたち一人一人がどんな願いをもってそのおもちゃに向かっているのか、それをもっと担任は丁寧に見取って活動を深めて、広げていく必要がある。声かけも、ポイントとなる子どもを見定めて、効果的にしていきたい。



3年2組(武藤級) 「戸部の0円楽器で すてきない音 おきかせします！」

【担任の意図】

「ドレミファソラ」にするためにはどうしたらよいのかを考え、今のままでできることと、今のままではできないことを整理し、今でできることを実際に試す。

【授業の様子】

ピンは大きさを考えて水の量を変えることで、音階を表すことができると今後の可能性を感じることができた。後半にピンで音を鳴らす活動ではなく、前半から話し合いの合間に音を鳴らして話すと、内容が具体化されていったと考えられる。



5年1組（小川級） 「笑顔広かれ！とべまちポスター」

【担任の意図】

自分たちが作った5つのポスターの中から1つのデザインが選ばれた理由について話し合う活動を通して、本当に大切にすべきことは、「その店主が大切にしていることやものを表現すること」だということに気付く。

【授業の様子】

子どもたちは、これまでの経験からポスター作りで大切な要素を5つのポスターを比較しながら考え、話し合うことができた。深める発問で子どもたちの価値観が本当に揺さぶられ、ポスターへの理解を深めることができていたか、課題が残った。



講師の先生から

- 新しいことを生み出そうとすると、それを乗り越えようとするからこそ子どもたちは成長し、それが生きる力になっていく。（生活）
- 自分の思いや願いの実現に向けて、振り返りたくなる活動をしていく。振り返ると役にたつと子どもが実感すると、その振り返りの質が上がり、気付きの質も上がってくる。（生活）
- 子どもたちが自分の単元に対する夢や目標を語れるようにする。単元全体を通して、どうしてその問題を解決しているのか自覚していることが大切。（総合）
- 子どもが経験した事実を「〇〇がありました。」「〇〇を教えてくださいました。」ではなく、その経験から考えたこと、自分がどうしていきたいかをしっかりと語れるようにしたい。（総合）